

(2) 千曲市の林業施策について

3. 森林病虫害対策（H26 予算 53,253 千円）

松くい虫による松枯れ被害はここ数年増加傾向にあり、森林の保全、景観維持の観点から防除対策は極めて重要です。千曲市では、対策として有人ヘリコプターによる空中薬剤散布、動力噴霧器による地上薬剤散布、被害木を伐倒し薫蒸処理する伐倒駆除や、今年度から伐倒した被害木をチップ化し火力発電用の木質バイオマス燃料として被害木の有効活用を行っています。

空中薬剤散布は、重要な松林を守るための有効な対策の一つではありますが、人の健康に影響を及ぼすことがあってはならないという基本的な考えに基づき、「松くい虫防除のための農薬の空中散布の今後のあり方（H23.11月）」及びそれを受けて改正された「長野県防除実施基準（H24.4月）」に添い、説明会の開催や周知の徹底等のリスクコミュニケーションを行い、散布は早朝に行うとともに、風速の制限や生活圏から一定の距離を確保するなど、安全性に配慮した方法で周辺住民等の健康への影響のリスクを最大限低減しながら実施しています。その結果、本年も市内の方で健康被害を訴えた方はおらず、安全確認調査の結果は、すべての地点で農薬成分であるチアクロプリドは定量下限値（ $0.2\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）未満でした。

また、伐倒駆除は被害量に応じて行ってきましたが、ここ数年の被害量の急増により駆除が追いつかない状況で、まだ被害が蔓延してなく駆除が効果的に行える地区に絞って駆除を行っています。昨年度は、当初 1300 m^3 の予定に対し 2105 m^3 の実績となり、今年度は当初 2000 m^3 の予定に対し、9月補正を合わせ $1,767\text{ m}^3$ を発注済みです。なお、集団的に枯れた場所については、次年度以降、林業事業者が県の補助を受けて実施する森林造成事業更新伐に対する嵩上げ補助を検討しています。また、保安林指定地内における集団的な松枯れ被害については、県の治山事業として対策をするよう要望を挙げています。

県内で問題となっているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、現在のところ千曲市では確認されておられません。昨年度、大池地区で一部集団的にカラマツの立ち枯れがみられ、調査の結果、カラマツヤツバキクイムシが原因と分かりました。間伐による残置材が原因とのことでしたが、被害の拡大はありません。本年6月には、羽尾地区の一部の森林で、広範囲にカラマツの葉が遠目に赤茶色に見える現象があり、調査の結果マイマイガの大量発生による食害と判明しました。成木は通常枯れることはありませんが、10年周期で大量発生し、2～3年継続する傾向があるようですので、今後注意深く監視してまいります。

松くい虫防除対策事業

- ・ 薬剤散布委託（空中散布、地上散布） ⑦7,657千円（国庫補助 3/4 以内）

① 空中散布

実施面積：125ha（更埴地区 45ha、戸倉地区 35ha、上山田地区 45ha）

使用薬剤：エコワン3フロアブル（農林水産省登録第 20897 号）

散布量：300ℓ/ha（7.5倍希釈 薬剤 40ℓ）

散布方法：有人ヘリコプター

② 地上散布

実施面積：0.30ha（大字上山田字城山地区）

使用薬剤：エコワン3フロアブル（農林水産省登録第 20897 号）

散布量：1,200ℓ/ha（200倍希釈 薬剤 6ℓ）

散布方法：動力噴霧器（スパウダー）

- ・被害木伐倒駆除委託 47,000 千円（当初 40,000+9 月補正 7,000）
被害木を伐採、玉切り後、現地に集積し、生分解シートで覆い、薬剤薫蒸処理する。
使用薬剤：NCS 剤（カーバム剤）
松林健全化推進事業 565 m³（国庫補助 5/10 以内）
保全松林緊急保護整備事業（衛生伐） 1,101 m³（国庫補助 7/10 以内）
市単独事業 1 m³（国庫補助なし）
被害木を破砕機でチップ化し木質バイオマス燃料として処理する。
保全松林緊急保護整備事業（衛生伐） 100 m³（国庫補助 7/10 以内）

- ・安全確認調査委託 ②2,691 千円（国庫補助 3/4 以内）農薬成分測定調査 7 箇所 56 検体

5. 野生鳥獣保護管理対策（H26 予算 477 千円）

鳥獣保護法に基づき、県の鳥獣保護員と連携し市内の野生鳥獣の保護に努めています。

また、県からの委任事務として、特定の野生鳥獣の捕獲について許認可の事務を行っています。最近、山の手入れ不足や荒廃農地、空き家放置件数の増加に伴い、野生鳥獣の出没や農作物への被害が深刻化しています。市有害鳥獣駆除対策協議会や市猟友会と連携しながら有害鳥獣捕獲をしています。年々市民からの問い合わせや被害は増加しています。平成 24 年度から狩猟免許を所持していなくても、被害者自身の敷地内であれば条件付きで有害獣の捕獲ができることとなったことから、今年度より有害獣捕獲用箱わなの市民への貸出しも開始し、住民自身による有害獣捕獲も進められています。個体数が短期間に激増していて、個人や行政だけの対応では困難な面もあり、各地区で協議会を設置し、防護柵などの対策を講じている集落が増えてきました。山には昔から鳥獣等があり、生物多様性保全は森林の持つ公益的機能の代表的なものでもあります。人と動物が良い形で共存できるよう市民の意識を高めていくことが求められています。

- ・鳥獣出没通報対応（4 月～12 月）
ツキノワグマ 11 件・イノシシ 12 件・カモシカ 6 件・ニホンジカ 1 件・
タヌキ 7 件・キツネ 3 件・ハクビシン 7 件・マガモ 1 件・ムクドリ 1 件
- ・鳥獣捕獲許可（4 月～12 月） 計 22 件
イノシシ 155 頭（83 頭） カッコ内は捕獲許可数のうち捕獲数
ニホンジカ 150 頭（34 頭）
タヌキ 35 頭（10 頭）
キツネ 23 頭（0 頭）
アナグマ 20 頭（0 頭）
ハクビシン 116 頭（15 頭）
カルガモ 100 羽（48 羽）
キジバト 300 羽（167 羽）
ヒヨドリ 1000 羽（316 羽）
スズメ 2000 羽（583 羽）
ムクドリ 800 羽（264 羽）
カラス 400 羽（230 羽）
ドバト 400 羽（125 羽）
- ・カモシカの個体数調整（2 月下旬予定） 407 千円
- ・ツキノワグマ対策（注意看板の設置等） 県への捕獲許可申請 2 件（うち捕獲 0 頭）

- ・有害獣捕獲箱わな貸出件数（4月～12月） 70千円
市民貸出件数 16件（うち捕獲 ハクビシン5頭）

6. 林道管理（H26 予算 46,853 千円）

市が管理している林道は 41 路線・約 80km、作業道は 23 路線・約 20km あります。主要路線の維持管理はシルバー人材センターに委託し、清掃、草刈り、パトロールなどを行っています。冬期間は通行止めとなりますが、市西部水道水源管理等のための不動滝線など一部の林道は除雪も実施しています。昨年度の台風被害により崩落した林道冠着山線は、国の災害復旧補助事業を受け、平成 26 年 9 月に復旧工事が完了しました。今年度は林道災害が発生しませんでした。修繕等を含め適切な林道管理を進めています。特に林道路面の洗掘や浸食の多い、佐野山線と中原入線は舗装工事を進めています。

今後も主要路網の管理を徹底するとともに、森林整備にあわせて作業路網の整備を進めていく必要があります。

・林道作業道修繕料	3,000 千円
・林道除雪委託料（不動滝線・更埴大岡線）	584 千円
・林道台帳作成（久露滝線・北山線）	972 千円
・林道等維持管理業務委託（シルバー 4 名）	⊗4,311 千円
・林道作業道崩落土砂撤去重機借上げ	2,000 千円
・林道工事（佐野山線・中原入線）	27,900 千円
・林道作業道除草等作業委託	⊗ 498 千円

H25 年度の繰越事業

・林道施設災害復旧事業 林道冠着山線工事	⊗7,787 千円
----------------------	-----------

9. 治山事業（H26 予算 536 千円）

なにかうまい文言で治山事業の概要を説明

谷止工飽和土の浚渫（当初予算 400 千円・9 月補正 1500 千円）4 箇所 1367 千円

保安林内の治山事業の県への要望 16 箇所

うち 2 箇所事業化 倉科石杭地区の山地災害総合減災対策治山事業

森大洞地区の保育治山事業

保安林指定地申請予定 2 箇所（桑原小坂東地区・小島東山地区）

10. その他